

内視鏡定期培養検査プロトコールを使用した洗浄消毒の評価

所属機関名：医療法人 原三信病院 内科外来内視鏡センター

内視鏡技師○仲本千明 有間雅子

看護師○大田敏枝 土屋一

消化器内科医師 原口和大

【はじめに】日本消化器内視鏡学会では、洗浄消毒に関して安全性を確かめるために Quality Assurance(品質保証)を推奨している。これまで当院では定期培養検査を行ってきたが、その方法は独自に作成した培養検査手順に沿って全ての内視鏡から 1 検体を提出するという方法であった。2015 年に当院で使用している内視鏡の構造にあった定期培養検査プロトコール(以下プロトコール)が発表されたため検査方法を変更し、洗浄消毒の評価を行ったのでここに報告する。

【目的】プロトコールに沿った培養検査を行い、内視鏡の洗浄消毒の実態を調査する。

【調査対象】当院にある内視鏡 32 本(上部用内視鏡 14 本、経鼻内視鏡 3 本、上部処置用内視鏡 2 本、下部用内視鏡 11 本、側視鏡 2 本)

【調査期間】平成 29 年 10 月から平成 30 年 1 月

【方法】月に 1 回、プロトコールに準じて全ての内視鏡の中から無作為に抽出した内視鏡 1 本から培養検査を実施する。

※検査の合格基準は一般細菌:≦20 コロニー形成単位(以下 CFU)/検査サイト、抗酸菌:0CFU とする。

【結果】4 回の定期培養検査を行ってきた結果、外表面から 1 回、吸引チャンネルから 1 回、≦1CFU/ml が検出され、その他の 3 回は一般細菌の検出は 0CFU/ml であった。抗酸菌に関しては、結果が出るまでに 6~8 週間かかるため、現時点で判明している結果としては 10 月~12 月の 3 回分は 0CFU であった。このことから、プロトコールに記載されている合格基準はクリアできていた。

【考察】今回の調査結果から、これまでの洗浄消毒が適正に行われていたと考えられた。また以前の検査方法とは異なり、1 本の内視鏡から複数箇所の検体を採取することで≦1CFU/ml という結果が得られた事については、検査方法の変更に伴う手技的な問題や、保管庫等に存在する環境菌などが考えられる。抗酸菌については結果が出るまでに時間がかかる為、その方法については、今後検討の余地がある。また、培養検査はプロトコールで「年 1 回以上」とされており、頻度や 1 回で行う本数について今後、内視鏡医師や感染管理認定看護師、検査科と相談しながら検討していく。

【結語】

- ① プロトコールに準じた内視鏡の洗浄消毒の実態調査を行ったが、合格基準をクリアできていた。
- ② 検査の頻度や 1 回で行う本数については、内視鏡医師や感染管理認定看護師、検査科に相談しながら検討していく。
- ③ 抗酸菌の検査については、結果が出るまでに時間がかかるため、今後検討していく。

[連絡先:医療法人 原三信病院 内科外来内視鏡センター 092-291-3434]